



東彼杵のひと

vol.10

すえよし
有川 末好さん

東彼杵町出身・在住
東彼杵町消防団 前団長(2015～2023年)
1955(昭和30)年生まれ
東彼杵町駄地郷出身・在住

東彼杵町消防団で長年にわたって地域の防災活動に従事し、今年春の叙勲で瑞宝双光章を受章した有川末好さんに、これまでの活動についてお話を伺いました。

入団のきっかけ

「消防団に入ったきっかけは25歳の時に遭遇した火事です。親戚の家に集まっていると隣家から火の手が上がり、親戚の家にも燃え移る勢い。何とかしなければという気持ちはあるものの、初めて見る火事に驚いて何をどうすればいいか一切わからず、終始うろたえてばかりでした。力になれなかった自分が不甲斐なくて、いざという時に力になりたいと思い、消防団の入団を決意しました」

大きなやりがい

「27歳で東彼杵町消防団第2分団に入団し、先輩方から基礎から教わりながら火事をはじめ災害現場に出動するようになりました。初めは緊張の連続でしたが、経験を重ねるうち徐々に冷静に対処できるようになり、いつしか大きなやりがいを感じるようになっていました。

1998(平成10)年には消防団の甲子園ともいわれる、ポンプ操法の県大会に出場しました。仕事終わりや休日に

団員たちと幾度となく練習を重ね、準優勝したのは忘れられない思い出です」

大工の仕事と消防団

「定時制高校に通いながら、大村市にある木工所に住み込みで修業を始めたのが15歳の頃。その後20歳で大工の親方に弟子入りしてから現在まで、大工として地元の木造建築に携わっています。

仕事も消防団活動も、親方が温かく見守り応援してくれておかげで、仕事中でもサイレンが鳴ればすぐに出動することができました。仕事場から一番近い分団の詰所まで走り、消防車に同乗して火災現場に駆けつけたこともありました」



使い込まれた道具たち。住まいの困りごとを解決する増改築を主に手掛けてきた。



感謝の気持ち

「昨年3月に41年間続けた消防団を引退しました。病気などで他界し、消防団を続けたくてもできなかった仲間たちを思うと、その分まで頑張りたいと力が湧いたものです。ここまで長く続けて来られたのは消防団や仕事場の仲間たちの存在、そして家族の理解と協力があったからこそだと、改めて感謝の気持ちが込み上げます。

引退の翌月、叙勲受章の知らせを受け大変驚きながらも、真っ先に思い浮かんだのは、13年前に亡くなった妻の顔でした。危険が伴う災害現場へ出動する私を心配しながらも、いつも誇りに思っただけで応援してくれていました。この受章を誰よりも喜んでくれていると思います」



消防団に入ったばかりの41年前、嬉しくて夫婦で撮り合った法被(はっぴ)姿の写真。

団員募集中!

「最後の8年間は団長を務めさせてもらいましたが、なかでも大きな課題の一つだったのが、団員数の減少です。活動時間を短縮して誰もが参加しやすくしたり、少数精鋭の団員でも地域を守れる仕組みづくりをするなど、消防団の改革も進んでいます。現場からは退きましたが、1人でも多くの方に活動に加わってもらえるよう、これからは消防団後援会の一員としてお手伝いできればと思います」

取材とぼれ話

10人きょうだいの末っ子に生まれた末好さん。「大工の道に入ったのは、苦勞している母親に立派な家を建ててあげたいという思いから」。念願かなって、お母さんは大変喜ばれたそうです。

中学生の頃に撮影した、お母さんとのツーショット。

